

# 夏の主催事業報告

## 野外活動指導者養成講座

「アウトドア・インストラクター・セミナー」



第2回 平成17年6月 4日(土)～ 5日(日)

第3回 平成17年6月25日(土)～26日(日)



5月14日～15日(第1回)に続き、6月4日～5日(第2回)、6月25日～26日(第3回)と3回に分けて開催しました。本事業は、広島大学との連携事業で、大学の講座「野外活動実践」として、広島大学の単位の修得が可能です。広島大学の講座受講生が15人、一般の参加者13人(大学生8人、社会人5人)、合わせて県内外から28人の参加がありました。

広島県キャンプ協会の鍋島先生をはじめ、同協会の井ノ本先生、江田島消防署の職員、及び広島大学の林先生という講師陣に恵まれ、参加者が主体的に活動し、グループで協力しながら活動や企画・運営を行うことができ、学び多き講座となりました。

参加者からは、自然を十分感じることができたことや、初めて体験したことによる驚きなどの感想が寄せられました。

今後、野外活動の指導者として、当青年の家を含め様々な場所で活躍することを期待しています。

## 青年ボランティア研修会

### ホッパ研修



平成17年6月11日(土)～12日(日)

青年ボランティア研修会の第1回目「ホッパ研修」は、常磐大学の池田幸也教授を講師にお招きして開催しました。

池田先生には、「ボランティアについての基礎的なこと」から「実践キャンプに向けてのプログラムの組み立て方」までを、チーム作りや情報収集といった活動を通してご指導いただきました。

これまではなかった「ドラえもん」、「ハイキング」等の身近な題材を用いたボランティア活動の指導に、参加者は大満足!「主体的に動くことで活動が深まり、意欲が向上していく」—そんな大切なことを再認識できた研修でもありました。



## 国際青年交流

### 『瀬戸内海環境フォーラム』

平成17年7月31日(日)～8月5日(金)



国立江田島青年の家と広島国際青少年協会、広島市、ハノーバ市(独)との共同開催により、ドイツ、イギリス、中国、フランス、ロシアなど10カ国約50人の外国人青年たちと、約50人の日本人青年たちが、当青年の家での長期宿泊研修(5泊6日)を通じ、平和についての相互理解を深め、青年同士の友情を温めました。

この長期宿泊研修では、「環境」をテーマに瀬戸内海海域での船上フォーラムを開催するとともに、当青年の家の特色あるプログラムであるカッター研修にも挑戦しました。

また、琴や子ども太鼓の鑑賞、書道家による実技鑑賞、けん玉や竹馬に挑戦するなど、日本文化に触れる機会を持ちました。

最終日の夕刻には、サンセットフェアウェルパーティーを開催し、しみゆく夕日を見つめながら、国境や言葉を超えた友情を誓い合いました。



## 海辺のアドベンチャーキャンプ

平成17年8月5日(金)～11日(木)

中学生・高校生29人が、大学生や社会人の青年たちから指導を受けながら、6泊7日のキャンプを実施しました。

呉市倉橋町の鹿島社会教育施設は、「前は海、後ろは山」という、自然豊かで、自分達だけの世界が広がる格好の場所でした。そこで生まれた数々の思い出。全ての人が特別な「何か」を持つことができたようです。

「時間に縛られることなくのんびりできてよかった。」「自分中心の考えから、まず他人を考慮するようにならってきた。」「生きていく力を得た気がする。」「創り上げていく体験は、とても貴重なものだと感じた。」といった言葉には、これまでの経験とは異なる展開に戸惑いながらも、主体的・積極的に関わることの必要性を感じ取った心の成長が窺えます。

「無」から「有」へ—その一歩が、踏み出されたようです。



## 体験航海

平成17年8月17日(水)～19日(金)

今回は、国立広島商船高等専門学校の練習船「広島丸」「ひかり」の操舵体験を行い、大型船と高速船の違いを感じました。またシーカヤックを体験したり、動力船で木村島(無人島)に上陸し、その周りの藻場(アマモの生息地)を観察しました。身近にない海の様子を見て、その豊かさに驚きました。

環境ワークショップでは、瀬戸内の人々のくらしと海の間わりを学習したり、瀬戸内海にいる希少生物について学びました。特に広島県立忠海高等学校の生徒の発表には驚きや感動がありました。

このセミナーで、瀬戸内海の自然のすばらしさとともに破壊されている自然の現実にも触れ、環境を守ることの大切さを実感することができました。



## カッターズ・キャンプ

### 夏キャンプ

平成17年8月18日(木)～21日(日)

今年の夏キャンプには、スタッフ55人、参加者88人が集まりました。キャンプ場での基地づくり、水泳場での水泳、ゲーム、野外炊事及びキャンドルサービスを行いました。

3日目の朝、野外炊事をしている時に、文部科学省の西阪昇スポーツ・青少年総括官が来られました。同総括官からは「元気な子ども達が集まって有意義なキャンプをしていると聞いて来ました。夏休みが終わった時、一回り大きく成長していることでしょう。」と参加者・スタッフへ励ましの言葉をいただきました。

参加者にとってもスタッフにとっても学びの多いキャンプができました。

